

# インみたか通信

発行： **NP0法人 障害者生活支援センター インみたか**

法人のページ

発行日： 2016年7月26日

No. 38

## 障害者差別解消法で、はたして差別はなくせるのか！？

～こんな差別 あんな差別～

インみたか通信 編集部

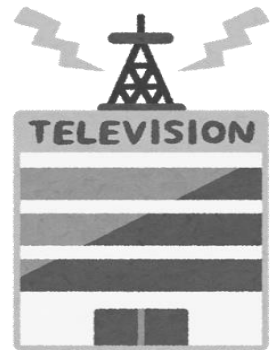
2016年4月1日から施行された「障害者差別解消法(★1)」をご存じでしょうか。今回は、ぽっぷの障がい当事者職員南雲と施設長金子の対話形式で、障がい者やインみたか(法人)が感じている「障害者差別解消法」の意味や課題について、お伝えします。

金子： 障がい当事者から見た障害者差別解消法についてまず一言。

南雲： 障害者権利条約(★2)では障がいに基づくあらゆる差別を禁止しています。その批准に向けて国内法の整備をする過程で、障害者差別**禁止法**を作りたかったんだよ。でも、いつの間にか**解消法**になってしまった・・・という感じ。これはちょっと違うなあって。

金子： 障がい者が日々感じている「差別」と、差別解消法で言われている「差別」は違うということ？

南雲： そうそう！ 差別解消法で言う「差別」は、段差などの物理的な障壁や、手話通訳者がいないことなどによって生じる情報伝達やコミュニケーションの不利益、障がいを理由に入店や申請を断るなどの行為でしかない。でも、それを解消することによってなくなる差別は、「**表面的なもの**」ではないよね。障がい者やその家族が日々感じているのは、もっと根深い「**精神的差別**」なんだ。それが表れるのが「冷たい視線」や「子ども扱いの言葉」、「過剰なお客様扱い」などなど。人間のなかにある「差別」や「偏見」がなくなるとね。「上下」「優劣」とか・・・。それぞれの意識を変えてゆくことができれば「差別解消法」なんてものは必要なくなると思うよ。



金子： 意識を変えるかあ・・・。表面的な解決に比べると相当難しいように思うけど、 ⇒ 2面に続く・・・

と く ひつよう なに ほうほう  
そういう取り組みこそ必要ですね。何か方法はありますか？

なぐも  
南雲： まずはありのままの僕たち障がい者を見て、知ってもらふことかな。「障がい者は自分たちとは全く別の生き物」という感覚の人って、まだまだ多いと思うんだよ。だから自ら地域に出て行ったり、自分たちの場のハードルを低くしていろんな人に来てもらったりして、「障がい者も自分と同じことで笑うんだ」「障がい者も自分で考えるんだ」「障がい者もお酒飲むんだ！」なんていう当たり前のことに気づいてもらうところから始まるのかなあって。

かねこ  
金子： なるほど～。24時間テレビなんかだと「障がい者は常にながらばっていて、障がいを乗り越えて、何かを成し遂げる素晴らしい人」なんてイメージも持つちゃうけど、うちの障がい当事者職員って、全然がなばってないですもんね（笑）。普通の人ですよ。

みなみくも  
南雲： 僕はがなばってますっ！

なぐも ひと ごと  
南雲の独り言

ほうりつ ちいき く ゆうこう つか おも つうよう ばんのう ぶき て い  
「この法律を地域で暮らしていくうえで有効に使いたいとは思いますが“どんなことにも通用する万能な武器”を手に入れた訳ではありません。そのことは、私たち障がい者も意識しておく必要があると思います。」

しょうがいしゃさべつかいしょうほう  
★1 障害者差別解消法

しょう かつ さまざま しせつ りよう さい しょうへき かいしょう ほうりつ  
障がいのある方が、様々な施設やサービスを利用する際に障壁となるものを解消するための法律です。  
またこの法律は、行政機関や民間事業者に対し、障がいを理由とする不当な差別的取り扱いを禁止しています。

しょうがいしゃけんりじょうやく  
★2 障害者権利条約

しょう しゃ そんげん けんり ほしょう じょうやく しょう ひと ひと どうどう しゃかい  
あらゆる障がい者の尊厳と権利を保障する条約。障がいのある人が、ない人と同等に、社会のあらゆる  
ばめん さんか そんげん も い しゃかい がわ ぶつりてきかんきょう ちか かん  
場面に参加して、尊厳を持って生きていけるように、「社会」の側が、物理的環境、価値観などをかえてい  
うという考え方。日本は2014年1月に批准しました。2015年11月現在の批准国は160カ国です。



ねんど えぬびーおーほうじんそうかいほうこく  
2016年度 NPO法人総会報告

えぬびーおーほうじんしょうがいしゃせいかつしえん りじちよう みやぎと わ こ  
NPO法人障害者生活支援センターインみたか 理事長 宮城永久子

さ がつ にち すい つうじょうそうかい かいさい  
去る6月22日(水)通常総会が開催され、2015年度の活動報告・決算及び今年度の事業計画・予算  
が承認されました。

ことし がつ しょうがいしゃさべつかいしょうほう せこう しゃかい かんが しょう しゃ  
今年4月より障がい者差別解消法が施行されたとはいえ、まだまだこの社会が考えている“障がい者  
に対する見方”が正しい方向に変わってきているとは言えません。

ねんど わ ほうじん しゃかい かん じいま しょうがいしゃかん か しゃかい たいわ  
2016年度、我が法人は、社会が感じている今の障がい者観を変えていけるように、社会との対話の  
機会を増やし、法人の思いを積極的に発信していきます。

そうかいいんすう めい しゅつせき めい うち いにんじょう しゅつせきしゃ めい けつせき めい  
★総会員数23名：出席16名(内、委任状による出席者7名) 欠席7名

# リレートーク 「地域で生きる」

そうだんしえん せんもんいん おがわやすあき はせがわびょういんとくていそうだんしえんじぎょうしよ  
相談支援専門員 小川泰明 (長谷川病院特定相談支援事業所)

長期にわたって精神科病院に入院をされていた方が地域で生活していくためにはリカバリーが重要である。そのリカバリーとは、精神障害をもつ人々が症状や障害が続いたとしても人生の新しい意味や目的を創り出し、希望を持って人生を生きていく過程のことである。そのために必要な支援として、居場所の確保、ご本人とともにその方を取り巻くご家族の支援、地域住民の理解とネットワークづくり、ご本人のサポート体制がある。サポート体制については様々な職種がそれぞれの役割を果たしながら連携して、その方に関わっている。ご本人の状況を多角的に捉えながら、退院意欲を引き出し、ご本人の生活を一緒に考えると同時にそのサポートを行っており、その場合、本人のペースにあった退院支援を入院前から退院後まで、関係職種との連絡や情報共有を大事にしている。

精神障がい者の方が地域で暮らし続けるためには「居場所」があること、居場所の選択が最も重要であり、その居場所とは自宅、職場、社会復帰施設、病院、地域活動の場であり、これらの居場所がご自分のペースを保てる場所であり、他者から尊重され自分を発揮出来る場所である。自分らしく貢献できているという思いや社会的な役割を果たしているという思いなどが心の拠り所になっていることから、その「場」にいるときのご自身の気持ちの有り様が大切である。

相談支援という立場では、単に退院後のサービスを調整するだけでなく、障害者が置かれている立場を代弁するという権利擁護の観点に立って、障害者の自己決定・自己選択を支援していくことも役割である。ここで陥りがちなのは専門家によるパターンリズムの相談支援、ないし専門職主導と呼ばれる相談支援が展開されていることがあるということ念頭に置く必要がある。「私は障害福祉の専門家、あなたよりも知識があり、経験も豊富です。あなたの幸せとしては、このような生活をするのが考えられます」といった一方的な提案型支援となっていないだろうかということをご本人、各支援機関の方々と日々振り返りしながら、ご本人中心の相談支援に徹することが重要であることを忘れず、この仕事に携わることができればと思っている。

はせがわびょういんとくていそうだんしえんじぎょうしよ  
長谷川病院特定相談支援事業所とは…

はせがわびょういん みたかしな いきよてん かま せいしんかびょういん  
長谷川病院は、三鷹市内に拠点を構える精神科病院です。

はせがわびょういんとくていそうだんしえんじぎょうしよ はせがわびょういん きんりんびょういん つういん かた にゅういん かた たいいん  
長谷川病院特定相談支援事業所では、長谷川病院はじめ近隣病院に通院している方や、入院している方たちが退院した後も、地域で安心して暮らせるよう、障害福祉サービスを利用するためのサービス計画の作成を行っています。

# ずっと、いっしょ。

6月4日(土) 後援会主催で  
上映会を開催致しました!

NPO法人障害者生活支援センターインみたか後援会 会長 佐々木泰明

一昨年(いっさくねん)に上映(じょうえい)した命(いのち)をテーマ(てま)にした感動作(かんどうさく)『うまれる』に引き続き(ひ つづ)き、今作(こんさく)の『ずっといっしょ』は、観る(み)ものに、家族(かぞく)の絆(きずな)、幸(しあわ)せのあり方(ありかた)を改めて(あらた)考(かんが)えさせられる(させらる)る、前作(ぜんさく)をも超(こ)える感動映(かんどうえい)画(が)でした。

上映会(じょうえいかい)に先立(まきだ)って行(い)われた広瀬(ひろせ)幸吉(ききちか)先生のトークイベント(たうくいふんと)では、「学(まな)んで、行(い)動(どう)する」という勝海舟(かつかいしゆう)の生き方(いきかた)についてご講(こう)話(わ)され、我々(われわれ)が支(し)援(えん)する法人(ほうじん)のルーツ(ルーツ)に通(つう)ずるもの(もの)がありました。

今回(こんかい)の来場者(らいじょうしゃ)は44名(めい)と、前回(ぜんかい)に比(ひ)べ、若(わ)干(かん)少(すく)な目(め)ではありましたが、普(ふ)段(だん)、法(ほう)人(じん)と関(かん)わり(わり)のな(な)い子(こ)育(そだ)て世(せ)代(だい)の客層(きゃくそう)も多(おほ)く、回(かい)収(しゆう)したアンケート(アンケート)から(から)は「三鷹(みたか)にこのよ(よ)うな法(ほう)人(じん)があること(こと)を初(はじ)めて知(し)りまし(まし)た!」との回(かい)答(とう)もあり、法(ほう)人(じん)の存(そん)在(ざい)を地(ち)域(いき)に普(ふ)及(きつ)させ(させ)る意(い)味(み)でも大(おお)きな成(せい)果(か)のあつた会(かい)であつた(と)感(かん)じてお(お)りま(ま)す。

さて、我(われ)々(われ)後(こう)援(えん)会(かい)は、今(こん)後(ご)も法(ほう)人(じん)の普(ふ)及(きつ)と発(はつ)展(てん)を目標(もくひよう)と、会(かい)員(いん)一同(いっどう)、一(いっ)丸(まる)とな(な)って後(こう)方(ほう)支(し)援(えん)に取(と)り組(く)んでま(ま)いりま(ま)す。並(な)びに、今(こん)年(ねん)度(ど)も正(せい)会(かい)員(いん)・準(じゆん)会(かい)員(いん)を廣(ひろ)く募(ぼ)集(じつ)してお(お)りま(ま)す(右(みぎ)ペー(ペー)ジ参(さん)照(しょう))。我(われ)々(われ)と共(とも)に、法(ほう)人(じん)を支(し)援(えん)し、ま(ま)すま(ま)す盛(も)り立(た)ててい(い)きま(ま)し(し)よう。

合掌(がっしょう)

{映画(えいが)上映会(じょうえいかい)に来(らい)場(じよう)して(して)いた(いた)だ(だ)いた(た)方(かた)から(か)ら(ら)の考(こう)め(め)んと(と) ~アンケート(アンケート)より(より)~}

・血(ち)のつな(つな)がり(がり)で(で)な(な)く、家(か)族(ぞく)、夫(ふう)婦(ふ)の絆(きずな)の形(かたち)を改(あらた)めて考(かんが)えること(こと)がで(で)きま(ま)し(し)た。お(お)互(たが)い(い)を思(おも)い(い)や(や)り、共(とも)に生(い)きること(こと)を教(おし)えても(も)ら(ら)いま(ま)し(し)た。(40代)

・広瀬(ひろせ)先生(せんせい)の講(こう)演(えん)がすば(すば)ら(ら)しか(か)つた。習(しゆ)慣(かん)は生(せい)をつく(つく)ることを常(つね)に頭(あたま)に(に)入(い)れ(れ)な(な)が(が)ら行(こう)動(どう)して(して)い(い)きま(ま)す。(50代)

・子(こ)供(ども)にも見(み)て(て)も(も)ら(ら)いた(た)い内(ない)容(よう)だ(だ)つた。難(なん)しいけ(け)れど(ど)会(かい)場(じよう)に(に)来(き)て(て)いた(た)子(こ)も最(さい)後(ご)ま(ま)で(で)見(み)て(て)いた(た)こと(こと)に驚(おどろ)いた(た)(30代)

前作と超える感動のドキュメンタリー 大ヒット映画 うまれる シリーズ第2作

輝くママになる映画

# ずっと、いっしょ。

ナレーション 樹木希林

あなたに逢えてよかった。

NHK や 各種新聞で話題!

全国の映画館が涙と笑いの渦に

「愛」をいろいろな角度から考えさせられました。(くわたりえ(タレント))

企画・監督・プロデューサー 古田秘馬 音楽: 古田秘馬 タイトルデザイン ©201

4



がつ にち  
5月3日 ゴールデンウィークの外で・・・

くるま りよう かの かいじょ  
車イス利用の方を介助して、グループで三鷹から電車を乗り継いで水族館へ。どこの駅もエレベーターはベビーカーの長蛇の列。係の駅員に連絡がつかず何十分と待つなど、あちこちの待ち時間の影響で、お昼ご飯が3時ごろになってしまった。ペンギンの餌やりショーも水槽も人がいっぱい、車イスの方に端からしか見ていただけない。

こ かんない りようしゃ かの まわ  
混んだ館内で利用者の方が周りに「すみません、邪魔でしょう」と何度も気遣いをされている。

れんきゆうちゆう へいじつ  
連休中でなく平日なら、待ち時間もなく、ゆったりと見学してもらえるなあと思っていた。

かえ みち ひとり りようしゃ かの  
帰り道に1人の利用者の方が「ゴールデンウィークに出掛けられて楽しかった。ずっと家で行楽のニュースを見ているのは寂しい。」とおっしゃった。

そーだよね！誰だってゴールデンウィークにはお出掛けしたい！

ゆったり見たほうがいいはずというのは、一方的な思い込みだったとハッとさせられた言葉だった。それに平日には気遣いが少なくなくて済むというのは、ヘルパー側の都合だなあと反省でした。(インみたかヘルパー:猪股緑)

がつ ぼうじつ  
5月某日 “がんばって” →オマエがなっ！

4月から、ダイエットも兼ねて自転車通勤をしています、小林です。

じてんしゃ こ あせ  
自転車を漕いで汗をかけば、のども乾くというのは自然なこと、気付けば仕事前に決まったコンビニに寄り、缶コーヒーを飲むのが日課となっていました。持ち前の意志の弱さで、ダイエットはあきらめつつあります。

そんなある日、日課のコーヒータイム中に、同じ仕事前にコンビニに立ち寄っていた、Aさんに会いました。

Aさんは僕より一回り年上で、スキンシップが好きな方です。目があった瞬間に近づいて来られて、チューできちやうくらいの距離で話をされます。それをけん制しながら、一言二言やり取りをして、「じゃあ、今日も仕事がんばってくださいね！」と伝えて別れました。

でもその後、何とも言えぬ違和感があり、Aさんを追いかけて「『お前ががんばれよ！』ですよ、俺も仕事がんばってきます！」と言って別れました。

Aさんは、朗らかで、行動がのんびりで、どんな時でもマイペースで、人から好かれる(人が周りに集まる)人気者です。

しかしそのマイペースさで、様々な場面で様々な人から“がんばって”という言葉が多く投げかけられているのではないかと思いました。そんなAさんにとって、僕が発した“仕事がんばって”は「おまえもっと頑張れよ！」って聞こえたかもし

れない？と思い体が動いてしまいました。(インみたか派遣部所長:小林)

がつ にち  
〇月〇日 僕からの愛ある鉄拳

せんじつ  
先日、コーヒーを貰おうと、精神科のある〇〇病院近くのコンビニに立ち寄った時のこと。コーヒーを飲みほして、空き缶を捨てるため、外に設置してあるゴミ箱に近づくと、数名の男たちがその前でたばこを吸いながらたむろっていた。

おそらく、この病院の患者なのだろう。

「邪魔だなあ…」と思いつつも、彼らをかき分けて、空き缶を捨てようとする、彼らからの鋭い視線がこちらに向けられた。「それは違うんじゃないの？」僕は瞬時に思った。

だから「ここに座り込むのは勝手だけど、人に迷惑をかけるのはやめてください。あなたたちがこんなことをしていると、〇〇病院に通っている方たち全員が同じように見られるのですよ」と語気を強めて言ってやったんだ。

そういえば、最近、彼らが集団でいるところを見かけなくなったなあ。僕の言葉が少しは響いたのだろうか？

(派遣部じゃないけど、ちょっと言いたくなっちゃった、ぽっふ施設長 金子洋祐)





# 柴田弘彰さんにインタビュー！

はけんぶ  
派遣部のページ

生まれも育ちも三鷹で、根っからの三鷹っ子。「お酒とタバコが好きです〜」な、40代のおじさん、柴田さん。  
柴田さんには、知的障がいと精神障がいがあります。かつては、家族と二人で暮らしていましたが、家族が入院したことをきっかけに、ご本人も精神科の病院に入院することに。ほどなくして、地域生活に戻る準備のため、2007年頃からぼっぶが生活支援として関わり始めました。そして退院後、柴田さんの一人暮らしが始まり、今に至ります。

平日の日中は三鷹ひまわり第二共同作業所(☆1)や、井之頭病院のデイナイトケア(☆2)に通い、仕事をしたり仲間たちと交流したりして過ごしています。生活全般の自己管理が難しく、金銭については、ぼっぶと生活福祉課のケースワーカーが連携して支援しています。また、生活リズムを整えるサポート役として、ヘルパーが毎朝自宅を訪問しています。

当然のことながら支援者がいない時間も多く、「そんな時間をどう過ごしているのかなあ」なんて興味津々で、自宅にお邪魔しました。部屋には昔懐かしい大量のレコードが！「今でも聴いてます〜」という柴田さんの宝物に囲まれて、「かんば〜い！」

一緒にビールを飲みながら、インみたか派遣部職員滝のインタビュー、スタート！

☆1：三鷹市近郊に在住し、精神科や神経科に通院している方が通所する場。主に、紙箱の組み立てや、空き缶つぶしなどの下請け作業を行っている。

☆2：集団活動や、各種プログラムへの参加によって社会機能の回復をはかる場。

たき 「柴田さん、三鷹から離れたことないんですか？」

しばた 「はい〜。これまでもこれからもずっと三鷹です。暮らし続けたいです〜。作業所に行き、毎日ヘルパーの〇〇さんたちや、友達の〇〇さんたちも家に来てくれて、ずっと今の暮らし続けたいです〜」

たき 「毎日人が来てたら疲れませんか？」

しばた 「え、なんで〜、疲れないよ〜。だってそのほうが寂しくないじゃん」

たき 「でも一人の時間もあるんですよ、何してるんです？」

しばた 「あるよ〜。テレビ見てる〜。買い物行って〜」

たき 「将来の夢とかあるんですか？」

しばた 「あ、結婚したいです」

と話しながら、ビールを飲み、タバコも吸い続け…。

たき 「柴田さん、毎日何本吸ってるんです？お酒も毎晩でしょ。柴田さんの身体を心配している人、いっぱいいますよ。お酒かタバコどっちかやめる！さあ、どっち？」

しばた 「え〜どっちもだめです〜。これなくなると、薬飲まなきゃいけない〜。もう、入院したくないです〜」

柴田さんにとってある種の精神安定剤なんだ、なるほど〜。おや、窓から部屋の中をのぞいている人が…。

しばた 「あ、〇〇さんどうぞ〜。今朝話してた、滝さんです〜」

柴田さんの友人ですね。

友人 「しばっちゃんたら、お客さんにお茶も出さないで〜」

しばた 「(缶ビールを見せながら)でも飲んでるよ〜。グアツハツハ。クラッカー食べる？夕飯、何にしよっか〜」

友人 「しばっちゃん、僕の食べ物置いてくと食べちゃうんだよなあ…」

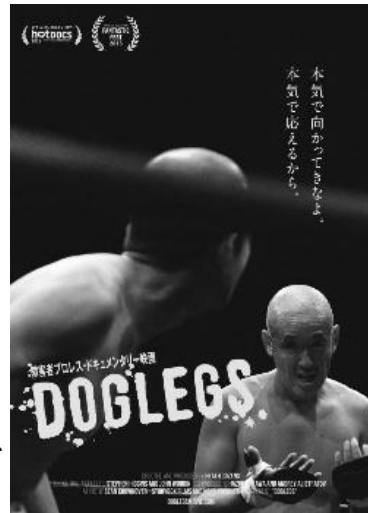
しばた 「グアツハツハツハ」

柴田さんの生活には、彼の温厚で、人懐っこく、ひょうきんな人柄に引き込まれ、いろいろな人が関わっています。支援という役割を担う人だけではなく、友人、知人とごちゃごちゃしながら生活していく、それが当たり前なんだと、ひょっこり顔を出した友人と夕飯の相談をする柴田さんを見て実感しました。柴田さん、また飲みましょうね〜。



しょうがいしゃ  
障害者プロレス  
えいが  
ドキュメンタリー映画

ド ッ グ レ ッ グ ス  
**DOGLEGS**



★この映画について（チラシより抜粋）★

25年の歴史を誇る障害者プロレス団体「ドッグレッグス」。

そこには重度障害者で自分の力でリングに入れず、転がされてリングインする選手がいたり、聾啞対盲目、身体障害者対精神障害者、障害者対介護者といった対戦があり、重度障害を持ち女装癖のあるアル中患者の父と、頑健な妻と若い息子との試合もある。

これらの活動を追い、ニュージールランド人監督が5年の歳月をかけて作り上げたドキュメンタリー映画。

その内容は・・・清掃員として働きながら、設立当初からドッグレッグスのスター選手として輝く慎太郎は、そろそろ引退し、普通の幸せを夢見る。しかし、リングを離れる前に白黒つけなければならない相手がいる。障害者を打ちのめし続けてきた健全者、ドッグレッグス代表の北島だ。（2015年制作）

★映画を見たインミタかヘルパー：渡邊亜衣さんの感想です★

新年明けた1月10日の公開初日、ポレポレ東中野という映画館で見てきました。

映画に出てくるサンボ慎太郎さんのことは私も直接知っていて、つたない私のギター伴奏で「涙そうそう」を一緒に歌ったこともあったりしたのですが、公開初日ということで、ドッグレッグス代表の北島行徳さん（「無敵のハンディキャップ」著者）と一緒に、慎太郎さんも舞台挨拶されていました。なんだか雲の上の人になったみたいで、すごーい！！

さて、肝心の映画の感想です。サンボ慎太郎さんと北島さんとの関係に代表される、障害者とか健全者とかを超えた、人と人との間の信頼関係のことが大きくクローズアップされていたように思います。仕事場での上司や同僚との関係、仕事やプロレスへの思い、好きなあのひとへの思い…。慎太郎さんの日常の中の1コマ1コマが丁寧にカットされていて、それがサウンドトラックかけられて。こんな積み重ねが切なくも愛おしいなと感じました。本当にいい映画でした。

私の中の色々なシーンも、サウンドトラックかけて積み重ねると、なんかのドキュメンタリー映画になるのかも？なんて思ってしまった、帰りの終バスの中で。

三鷹市 障がい者相談支援センターぽっぷ

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2F

TEL 0422-71-0901 FAX 0422-26-5141

メール poppu@dream.ocn.ne.jp

ホームページ http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/

三鷹市 障害者生活支援センター インミタか 派遣部

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102

TEL 0422-71-0902 FAX 0422-24-6266

メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp

ホームページ

http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html

三鷹市 障がい者計画相談センターくも

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102

TEL 0422-26-7229 FAX 0422-26-7229

目次

- P1 法人のページ あんな差別 こんな差別
- P2 法人のページ 法人総会のご報告
- P3 法人のページ リレートーク「地域で生きる」
- P4 法人のページ 後援会主催上映会 開催しました
- P5 法人のページ 2015年度 後援会協力のお礼
- P6 派遣部のページ 派遣部の日記
- P7 派遣部のページ 利用者さんインタビュー
- P8 ぽっぷのページ 映画紹介